

学科	理容科	担当教員	宗像		
科目名	関係法規・制度	学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	法律が理容業・理容師とどう関わるのか、具体的事例を通じて学ぶ。国家試験に合格できる十分な点数を取るために、正確な知識を習得する。暗記に頼らず、「なぜ」法律にこう規定されているのか、自ら考える力をつけることを意識し、社会に出た際に直面する問題にも対応できるように学ぶ				
授業回	学習内容				備 考
1	(1) 法制度の概要・法とは何か (2) 理容師免許の取得方法 【到達目標】法律とは何かを説明できる。理容師となった時に、法律とどう関わりを持つのか、法律の存在意義を知る。理容師免許を取得するまでの過程を説明できる。				
2	(1) 用語の定義 (2) 理容師免許制度 【到達目標】法律上「理容」や「理容所」がどういう意味であるかを的確に説明できる。理容師免許の取得後の扱いについて説明できる。				
3	(1) 理容師の守るべき義務 (2) 理容師に対する行政処分 (3) 管理理容師 【到達目標】理容師の負う義務について知るとともに、どのような違反をするとどのような処分がなされるかが理解する。管理理容師の仕事内容・資格の取得方法など管理理容師の全てを体系的に把握できる。				
4	(1) 理容所の開設 (2) 立入検査 【到達目標】理容所の解説の流れを説明できる。さらに開設後に行われる検査について説明ができる。				
5	(1) 開設者が負う義務 (2) 理容所以外の業務 【到達目標】解説者が負う義務とそれに対する処分を理解する。理容所以外で理容業ができる場合を説明できる。				
6	(2) 行政処分・罰則 (3) 行政機関・保健所・衛生行政 【到達目標】誰がどのような違反をするとどの処分、罰則が出されるか、正確に伝えることができる。保健所が行政機関としてどのように理容所に関わっているかを説明できる。				
7	総合演習 来年度に向けて今まで学んだ項目の最終確認を行い、曖昧な知識を確実なものとする。☑				
8	定期試験				
到達目標	理容師法の基本知識を正確に取得する。 一つ一つの条文の具体的な場面を説明することができる。 その条文が「なぜ」存在しているのか、「何のために」設けられているか、説明することができる。				
評価方法	各期筆記試験（100点満点）で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	教科書：関係法規・制度 公益社団法人日本理容理容教育センター指定教科書				

学科	理容科	担当教員	岩崎		
科目名	衛生管理（衛生管理技術）	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	消毒法の長所・短所を知り、仕事上でも、一般生活でも生かせるようにする。				
授業回	学習内容				備 考
1	消毒の意義 【到達目標】 汚染・感染・発病・殺菌・消毒・滅菌・防腐の定義を知り、説明できるようになる				
2	理容業務と消毒との関係 【到達目標】 理容師法・施行規則を完全に理解し、適切な消毒法を選択できるようになり、怠った時の責任も知る				
3	理学的消毒法各論 【到達目標】 紫外線消毒・煮沸・蒸気の特徴・長所・短所などを覚え適用できない物品を考えられるようになる				小テスト予定
4	化学的消毒法各論 i 【到達目標】 アルコールなど各消毒薬の長所・短所を覚え、適用できない物品を考えられるようになる				
5	化学的消毒法各論 ii 【到達目標】 前回同様、他の消毒薬の長所・短所を覚え、適用できない物品を考えられるようになる				
6	器具の扱い方（メスシリンダーなど）・濃度計算練習 【到達目標】 優れた消毒法の条件を説明でき、濃度計算も確実にできるようになる				
7	総復習 【到達目標】 問題形式で総復習を行い、自身の足りない所に気づくことができるようになる				小テスト予定
到達目標	消毒の様々な条件を鑑みて、適切な消毒法を選択できるようになる。				
評価方法	各期期末試験（100点満点）で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	衛生管理：日本理容美容教育センター指定教科書				

学科	理容科	担当教員	岩崎		
科目名	衛生管理（感染症）	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 （単位）	15
教育目標・ ねらい	病原微生物の構造・毒性を学ぶとともに、感染経路などを知る、また各感染症の特徴を覚え、 お客様にレクチャーできるようにする。				
授業回	学習内容				備 考
1	感染症発見の歴史・感染症の分類 【到達目標】 歴史上の人物の業績を知る、感染症の法律上の分類と、それぞれ の特徴を学び、説明できるようになる				
2	病原体の身体への侵入・媒介経路による分類 【到達目標】 空気・飛沫、飲食物、動物・節足動物、血液などを介している感 染症なのかを理解し、説明できるようになる				
3	病原微生物 【到達目標】 微生物の形、構造（毒性の存在）、環境の影響、増殖の仕方を理 解し、日常生活に役立てられるようになる				小テスト実施
4	感染症の予防 【到達目標】 感染の形態、常在細菌叢の分布、免疫、感染源・感染経路につい て学び、説明できるようになる				
5	感染症各論 i 【到達目標】 結核・SARS・鳥インフルエンザ等空気・飛沫を介する感染症の 症状・感染経路などを学び説明できるようになる				
6	感染症各論 ii 【到達目標】 飲食物・血液等・動物・節足動物を介して感染する感染症の症 状・感染経路などを学び説明できるようになる				
7	総復習 【到達目標】 問題形式で総復習を行い、自身の足りない所に気づくことができ るようになる				小テスト実施
到達目標	感染症を理解し、仕事上お客様や自分自身の感染を防ぐことができる。				
評価方法	各期筆記試験（100点満点）で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は 受験することができない。				
テキスト	衛生管理：日本理容美容教育センター指定教科書				

学科	理容科	担当教員	岩崎		
科目名	衛生管理(公衆衛生・環境衛生)	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	公衆衛生・環境衛生を学び、公衆衛生の維持向上に役立てる				
授業回	学習内容			備 考	
1	微生物と人との関係・人の防御反応 【到達目標】 微生物の存在、及び人間の防衛力を知り、身を守るとともに人にレクチャーできるようになる。				
2	公衆衛生の歴史及び歴史上の人物 【到達目標】 公衆衛生の発展と、業績のある人物について学び、人の寿命に関係があることを説明できるようになる。				
3	保健・生活習慣病 【到達目標】 保険の仕組み・出生率・死亡率・平均寿命・生活習慣病を学び、如何に公衆衛生が必要か説明ができる。				
4	生活習慣病・介護保険制度 【到達目標】 各生活習慣病の危険因子を学び、病気になるようにし、レクチャーできるようになる。			小テスト実施	
5	環境衛生と人の適応 【到達目標】 空気成分や、有害物質の発生状況を知り、説明できるようになる。				
6	照明・冷暖房・上下水道の仕組み・廃棄物 【到達目標】 照明のあり方、冷暖房の健康との関係、浄水場の仕組みを学び公衆衛生の維持向上に役立てられるようになる。				
7	総復習 【到達目標】 問題形式で総復習を行い、自身の足りない所に気づくことができるようになる。			小テスト実施	
到達目標	資格の取得と共に発生する、公衆衛生の維持向上に対する責任を果たせるようになる。				
評価方法	各期筆記試験（100点満点）で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	衛生管理：日本理容美容教育センター指定教科書				

学科	理容科	担当教員	齋藤		
科目名	保健（人体）	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間（単位）	15
教育目標・ねらい	最終的には国家試験問題を全問正解することが目標であるが、それだけではなく、人体の構造を学ぶことにより理容人として、人間の美と健康に携わる職業であることの自覚を持ってもらう。また、自分の身体の健康や接客時のお客様との会話の中でも常識として理解を深めていただきたい。				
授業回	学習内容				備 考
1	健康とはなにか？理容師が保健を学ぶ理由について考える。 【到達目標】 国家試験科目でもあるが、「人体」を理容師としてなぜ学ばないといけないかを理解する。				
2	第1章 頭部、顔部、頸部の体表解剖学 1. 人体各部の名称 2. 頭部、顔部、頸部の体表解剖学 【到達目標】顔のランドマークをしっかりと覚え、施術時の基準としても使用できるよう理解する。				
3	第2章 骨格器系 1. 骨の種類と構造 【到達目標】 人体の骨格の種類や骨の構造や働きを学ぶ。				
4	第3章 筋系 筋の種類と構造 【到達目標】 人体の筋肉の種類や筋の構造や働きを学ぶ。また、顔面の表情を作る筋を覚える。				
5	第4章 神経系 神経系の成り立ち 【到達目標】 人体の神経の種類や神経の構造や働きを学ぶ。				
6	第5章 感覚器系 【到達目標】 五感といわれる視覚・嗅覚・聴覚について学ぶ。				
7	第5章 感覚器系 【到達目標】 五感といわれる味覚・平衡感覚について学ぶ。				
到達目標	理容師として必要な人体の構造及び機能を学び、国家資格を得るにあたって十分に必要な知識を習得している。				
評価方法	各期末試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	『保健』（理容美容教育センター編）、配布プリント（まとめ・練習問題）				

学科	理容科	担当教員	古 荘		
科目名	保健(皮膚科学)	学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	30
教育目標・ ねらい	皮膚の構造について理解し、サロンでの施術、お客様への対応に活かせるようにする。				
授業回	学習内容			備 考	
1	表皮の構造について 1				
2	表皮の構造について 2				
3	真皮の構造について				
4	皮下組織について				
5	皮膚付属機関について 1				
6	皮膚付属機関について 2				
7	免疫機能について				
8	皮膚と皮膚付属機関の生理機能				
9	皮膚と皮膚付属機関の保健				
10	皮膚と皮膚付属機関の疾患 1				
11	皮膚と皮膚付属機関の疾患 2				
12	皮膚科学総まとめ				
13	期末試験対策				
14	期末試験対策				
到達目標	皮膚の構造について理解し、理容の業務に差し支えない様にする。				
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。また、定期的に実施する小テストの成績も評価に加味する				
テキスト	・保健：日本理容美容教育センター指定教科書 ・各授業毎に資料配布				

学科	理容科	担当教員	村田		
科目名	香粧品化学	学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	30
教育目標・ ねらい	香粧品に用いられる薬剤の成分や効能を学ぶことを通して理容師・美容師に必要な化学的分野の知識習得を目指す。				
授業回	学習内容				備 考
1	導入、香粧品の定義：香粧品を取り扱うことにあたって必要な法律や注意点を学ぶ。 【基礎化学】物質の構成				
2	香粧品の取り扱い：保存や用法、適正な使用方法を学ぶ。 【基礎化学】物質の量、溶解、コロイド				
3	水性原料、油性原料：香粧品の主原料となる成分の種類や特徴を学ぶ。				
4	界面活性剤：4 種類の界面活性剤の特徴、使用用途を学ぶ。				
5	色材・香料：香粧品のアクセントとなる香料の原材料、色材の特徴や長所と短所を学ぶ。				
6	配合成分：香粧品の品質維持に必要な防腐剤・殺菌剤・紫外線吸収剤・酸化防止剤・収れん剤などについて学ぶ。				
7	ネイル・まつ毛エクステンション材料：近年増加してきたマツエクの注意点・安全性などについて学ぶ。 【基礎化学】酸・塩基				
8	基礎香粧品：洗浄用香粧品・化粧水・クリームや乳液の効果や成分について学ぶ。				
9	メイクアップ用香粧品：ファンデーションやアイメイクアップ用品の配合成分や分類について学ぶ。 【基礎化学】酸化・還元				
10	シャンプー剤：頭皮毛髪の洗浄・健康維持のための用品についてシャンプー・リンス・トリートメントについて学ぶ。				
11	パーマ剤：パーマの手法とそこに用いる薬剤の効能・注意点を学ぶ。 【基礎科学】酸化・還元				
12	ヘア・カラー：染毛の機序と染毛剤の種類とその特徴を学ぶ。				
13	特殊香粧品：スキンケアとしてのサンケア製品の特徴を学ぶ。				
14	芳香製品：香水やコロソなど、芳香製品の分類・特徴を学ぶ。				
到達目標	理容師・美容師の通常業務における使用薬剤などの効能や手法などの知識習得				
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。また、定期的実施する小テストの成績も評価に加味する				
テキスト	日本理容美容教育センター編：香粧品化学				

学科	理容科	担当教員	柳瀬、坂上		
科目名	文化論	学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	14
教育目標・ ねらい	理容師の仕事は、お客様とのコンセンサスを得たうえで技術を提供することが大変重要である。「文化論」の学びの内容には、コンセンサスを得るためのヒントや創造の幅を広げるエッセンスが多く存在している。これらの基本を知り、日々の学びや経験の中で各自が理解を深めることを目指す				
授業回	学習内容				備 考
1	教科書オリエンテーション、文化論で何を学ぶか				
2	理容業・美容業の発生、ファッション文化史日本編				
3	中世の時代から江戸時代までの髪型と服装、				
4	明治・大正・昭和前期までの髪型と服装について				
5	1945年から1950年代のファッション文化について				
6	1960年代以降のファッション文化について				
7	定期試験				
到達目標	時代、時代における流行の背景やファッション文化について知識を深める。				
評価方法	各期筆記試験（100点満点）で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	理容文化論（日本理容美容教育センター指定教科書）				

学科	理容科	担当教員	畑中		
科目名	運営管理（マーケティング論）	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	仮想店舗の創作を体験したり、「運営管理」のテキストで理論を習得したりすることで、将来、サロン内外で管理業務的職務の遂行が必要になった場合に対応できるようになる。				
授業回	学習内容			備 考	
1	「運営管理」テキストを活用した「財務・税金の知識」の習得 【到達目標】 貸借対照表と損益計算書の見方が分かるようになる。また、税の種類や納税の基礎知識を説明できるようになる				
2・3	班ごとに作成した仮想店舗の損益計算の確認 【到達目標】 なぜこのぐらい売上高が必要なのかを説明できるようになる				
4	班ごとに作成した仮想店舗のコンセプトの再確認と役割分担確認 【到達目標】 コンセプトに基づいたチームの役割分担の方法を説明できるようになる。同時に、チームで行うことの大切さを習得する				
5	「運営管理」テキストを活用し、と国家資格学科試験に対応できるための能力を養いながら、4回までのグループワークで実行した「価値の知識」の習得と「マーケティング・ミックス」の理解。 【到達目標】としては、理容業のサービスの価値の中身とマーケティングの基本理論を説明できるようになる。				
6	「運営管理」テキストを活用し、「労働基準法」「労働安全衛生法」の理解と前期に学習した財務の復習・・・小テスト 【到達目標】 労働基準法や給与について、労働安全衛生法などの概要を説明できるようになる				
7	テキストを活用し、「社会保険知識」の習得と小テストの実施。 【到達目標】 社会保険の種類とその中身を説明できるようになる。				
8	後期テスト				
到達目標	サロン運営の基礎知識を学び、将来的に、店舗オーナーや管理者になったときに役に立つ知識を仮想体験すると同時に、国家試験科目の「運営管理」に対応できるものとする。				
評価方法	個別の知識については、前期と後期にテストを行い、その点数により、また、市場創造力については、発表内容によって評価する。				
テキスト	学校から配布する「運営管理」テキストを必ず持参し、当方が準備するプリントをコピーして頂いて、配布して使用。プリントは紛失すると履修できないので、必ずファイリングし、授業に持参すること。				

学科	理容科	担当教員	池田・柳瀬・三宅		
科目名	理容技術理論	学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	60
教育目標・ ねらい	理容技術理論の基礎とともに、技術内容ともあわせて理解することが出来るようにする。				
授業時間数	学習内容				備 考
1	理容技術の基礎	(1) 人体の各部の名称 (2) 理容技術における技術姿勢 (3) 理容技術とトレーニング 【到達目標】理容師として正しい姿勢での技術と人体の各部の名称を覚え使用することができる			
2	理容マッサージ	(1) マッサージの意義と効果 (2) 理容マッサージのマニピュレーション 【到達目標】マッサージ理論および手技と、その効果を説明することができる			
3	理容用具	理容用具の名称 ～ シザース、レザー、クリッパー、コーム、ブラシ、ヘアアイロン、ヘアドライヤー～ 【到達目標】理容師が使う道具の名称を覚え、安全に操作することができる			
4	シャンプーイング&リンシング	(1) シャンプーイングの方法 (2) シャンプーイングの技法 (3) リンシング 【到達目標】シャンプー理論及び手法とその効果を説明することができる			
5	ヘアトリートメント	(1) ヘアトリートメントの種類 (2) ヘアトリートメントの一例 【到達目標】ヘアトリートメント理論及び手技とその効果を説明することができる			
6・7	ヘアカッティング	(1) ヘアカッティングの基本原則 (2) デザインヘアのスタイル別カットシステム (3) デザインヘアカットの一例 【到達目標】スタイル別のヘアカッティング理論及びそのヘアスタイルの特徴を説明することができる			
8	パーマメントセット	(1) パーマメントウエーピング (2) ワインディング (3) アイアニング (4) デジタルパーマ 【到達目標】パーマメントを施術するうえで必要な薬剤の知識、種類、効果効能などを説明することができる			

授業時間数	学習内容		備 考
9	ヘアカラーリング	(1) 色彩の原理 (2) 染毛剤の種類と原理 (3) 染毛剤の安全性と取扱上の注意 (4) ヘアカラーリング技術プロセス 【到達目標】 ヘアカラーリングを施術するうえで必要な薬剤の知識、種類、効果効能などを説明することができる	
10・11	シェービング	(1) シェービングの要件 (2) シェービングの種類 (3) シェービングの基本技術と要領 (4) シェービングプロセス 【到達目標】 シェービングを安全に正しく施術できるように必要な理論及び技法を説明することができる	
12	理容エステティック	(1) スキンケア (2) フェイシャルケア 【到達目標】 シェービング前後のお肌のケアについて正しく施術できるように必要な理論及び技法を説明することができる	
13・14	ヘアカッティング	(1) ヘアカッティングの基本原則 (2) ヘアカッティングの一般手順 【到達目標】 ヘアカッティング理論及びそのヘアスタイルのデザインする上での技法とその特徴を説明することができる	
15	学期末試験	学科試験	
到達目標	理容技術は、人を対象として直接皮膚に触れたり、刃物を使うことから、どの技術も習練が必要であり、何より安全性が必要とされる。そのために技術理論の意義を十分理解し、理容師としての基礎的知識を習得する。		
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない		
テキスト	「理容技術理論1・2」（日本理容美容教育センター指定教科書）		
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる理容師養成の観点から授業を行う		

学科	理容科	担当教員	池田・柳瀬・三宅		
科目名	理容実習	学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	540
教育目標・ ねらい	理容技術理論の基礎とともに、技術内容ともあわせて理解することが出来るようにする。				
授業回	学習内容				備 考
1～7	基礎トレーニング	正しい道具の持ち方や使用方法ならびに正しい作業姿勢を教科書に沿って学ぶ 【到達目標】理容師としての基礎的知識技能を習得する			14時間
8～30	理容マッサージ・シャンプー	マッサージ・シャンプー理論及びマッサージ・シャンプー技術を習得する 【到達目標】お客様に快感を与えられるマッサージ・シャンプー技術並びに好感を持たれる接客力を習得する			46
31～53	セイムレイヤー	セイムレイヤーカットの特徴である全ての毛髪が同じ長さで切り揃えられるよう、ヘアカッティング理論と技術を習得する 【到達目標】セイムレイヤーカットを失敗しないためには、どのようにすれば良いのかを説明することができる			46
54～75	ワンレングスカット	ワンレングスカットの特徴である同一線上のカットラインを表現できるよう、ヘアカッティング理論と技術並びにドライヤーとヘアブラシによるブローセット理論及び技術を習得する 【到達目標】50分間で、ワンレングスのカッティング及びブロースタイリングをすることができる			44
76～92	フォーマルカット	国家試験合格を見据えながらミディアムカットスタイル（試験課題）をデザインするために必要なヘアカッティング理論とスタンダードヘアカット技術の習得 【到達目標】30分間で、ミディアムカット及び整髪をすることができる			34
93～105	グラデーションカット (インサイド・アウトサイドグラデーション)	グラデーションスタイルの特徴である段差の種類を学ぶ（インサイド・アウトサイド）ことで、グラデーションカットデザインの幅を理解し、目的に合わせて使い分けらるよう理論及び技術を習得する 【到達目標】85分間で、グラデーションボブスタイルのカッティング及びブロースタイリングをすることができる			26
106～135	ワインディング	パーマネットウェーブ技術に必要な理論ならびにワインディング技術（上巻き、下巻き）を習得する 【到達目標】35分間でCライン巻きをすることができる			60

授業回	学習内容		備 考
136~178	シェービング	シェーピング理論と技術の習得及びシェーピングの事前事後のお肌のケアについての理論と技術の習得 【到達目標】お客様に快感を与えられるシェーピング理論と技術の習得とお客様から好感を持たれる接客ができる	86時間
179~184	カラーリング	ヘアカラーリングの技術に必要な理論ならびに基本の塗り方を習得する 【到達目標】トーンアップ、ハイライト、オンカラーでカラーリングによりデザインされた作品を創ることができる	12
185~186	レザークット	カッティングレザーのみを使用したデザインカットをするために必要な理論ならびにレザークットテクニックを習得する 【到達目標】カッティングレザーのみでカッティング及びブロースタイリングをすることができる	4
187~270	コース選択 (スタイリスト)	ヘアデザインに必要な応用する力と想像力を高めるために必要な基礎的知識、技能を修得する 【到達目標】ヘアスタイルを立体的に観測し、ヘアデザインの構造と技法を読み解く能力を活かし、ヘアスタイルをカタチにすることができる	168
	コース選択 (リラクゼーション)	女性に施術することを目的としたシエステ(＝シェーピングエステ)及びネイル、メイクの基礎的知識、技能を修得する 【到達目標】肌質やスキントラブルを分析し、シエステを駆使しながらモデルの肌を美しくすることができる。また、ネイルやメイクなども加えることにより、トータルビューティーまで発展させた立案・提案ができる	
到達目標	理容技術は、人を対象として直接皮膚に触れたり、刃物を使うことから、どの技術も習練が必要であり、何より安全性が必要とされる。そのために技術理論の意義を十分理解し、理容師としての基礎的技能を習得する。		
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない		
テキスト	「理容技術理論１・２」「技術テキスト」（日本理容美容教育センター指定教科書）		
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる理容師養成の観点から授業を行う		

学科	理容科	担当教員	大草		
科目名	理容美術（造形学）	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	22
教育目標・ ねらい	2年次の"ブランディング・デザイン開発プログラム"の各制作物を念頭に透視図法を始めとする"モノ"の表現並びにスマホアプリ（アイビスペイント）操作方法を熟知していく				
授業回	学習内容				備 考
1	アイビスペイント基本操作－1：プリントに沿って基本をマスターする 【到達目標】 右図で使う技術の修得				
2	アイビスペイント基本操作－1：PART1〈基本マスター項目〉 【到達目標】 同上				
3	アイビスペイント基本操作－1：PART2〈便利な機能をマスターする〉 【到達目標】 同上				
4	アイビスペイント基本操作－1：PART3〈レイヤーをマスターする〉 【到達目標】 同上				
5	アイビスペイント基本操作－1：PART4〈定規をマスターする〉 【到達目標】 同上				
6	アイビスペイント基本操作－1：PART5〈基本のフィルターをマスターする〉 【到達目標】 同上				
7	アイビスペイント基本操作－1：PART6〈応用のフィルターをマスターする〉 【到達目標】 同上				
8	アイビスペイント基本操作－2：上記各項目を熟知した上で理容科のメイキング 画像制作 【到達目標】 技術の応用				
9	アイビスペイント基本操作－3：上記各項目を熟知した上で理容科のメイキング 画像制作 【到達目標】 技術の応用				
10	アイビスペイント基本操作－4：上記各項目を熟知した上で理容科のメイキング 画像制作 【到達目標】 技術の応用				
11	"アイビスペイント応用制作"：理容科のメイキング画像制作				
到達目標	自分のアイデアをラフスケッチからより具体的にデジタルアプリ（アイビスペイント）を使用し、デザインの完成を磨きつつ、明確な表現で他人にしっかりと伝達する技術を養う。				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る欠席者は評価対象としない。				
テキスト	各回必要に応じてのプリント配布				

学科	理容科	担当教員	武智		
科目名	理容美術(店舗設計)	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8
教育目標・ ねらい	店舗設計を通じて、お客様（社会）が求めるサロンを自らが考える力を身につける				
授業回	学習内容				備 考
1	最新の店舗デザインと理美容業界のマーケティング 【到達目標】 (1) 様々な店舗を知り、将来造りたい(勤めたい)サロンをイメージする (2) 理美容業界の過去の変遷を学び、今後の社会が望むサロンづくりを考える				
2	店舗に関わる法的概要と店舗レイアウトの考え方 【到達目標】 (1) 理美容師法を理解し、開業時に必要な事項を身に付ける (2) 行動学・心理学に基づき、儲かる店のレイアウトの考え方を身に付ける				
3	色と光（照明）の基礎知識と演出手法 【到達目標】 色は光によって見え方が変わり、技術がより良く見える演出手法を身に付ける				
4	最新サロンの事例紹介と各講義の理解度テスト 【到達目標】 自ら考えるサロンをプレゼンテーションするスキルを身に付ける				
到達目標	各講義の基礎知識を身に付け、勤めたい店（開業したい店）のイメージを上げる				
評価方法	各期筆記試験（100点満点）で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	パワーポイントでの映像およびプリント （実際にタカラスペースデザイン(株)で施工した最新の店舗デザインパネルを使用）				

学科	理容科	担当教員	吉田		
科目名	表現技術（OA）	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 （単位）	10
教育目標・ ねらい	具体的な店舗企画開発をチームで創出・プレゼン発表することにより、技術者本位ではなくお客様目線でのサロンサービスとは何か、その本質を知り得る。				
授業回	学習内容				備 考
1	①何のためにプレゼンするのか、プレゼンの構成を考える。 ②テンプレート書式から発表用のスライド構成を組み立てる。 【到達目標】自分本位のプレゼンではなく、誰が得する発表なのかを理解できる。				グループワーク
2	①伝わるスライドづくり、資料のブラッシュアップ。 ②提案サロンの強み、メニューの魅力、顧客のメリットを言語化。 【到達目標】単なる資料の読み上げでないこと、ライブ発表ゆえの意義を正しく理解できる。				グループワーク
3	①プレゼンの実践：第一回目、発表の原稿づくりとフィードバック。 ②スライドごとの抑揚、一番伝えたいことを明確化。 【到達目標】発表の実際を知る。人にどう伝わっているのか、意見や指摘を受け入れ、次回までに改善できるようにする。				グループワークと 模擬発表
4	①プレゼンの実践：第二回目、要点の絞り込みとフィードバック。 ②改善点を活かし、制限時間内での発表、内容を要約する。 【到達目標】つかみ・本題・まとめの話し方ができる。自分の企画に自信をつける。				グループワークと 模擬発表
5	①本番に向け発表の分担、時間配分の調整、効果的な見せ方を工夫。 ②他グループの模擬審査と最終的なフィードバック。 【到達目標】人前でも堂々とワクワクしながら発表できる。礼節を持ったプレゼンテーションができるようになる。				グループワークと 模擬発表
到達目標	チャレンジカップで、理容の魅力が正しく伝わるプレゼンテーション力を身につける。 夢のサロン企画を通して、実社会から求められる店舗のあり方を体得する。				
評価方法	プレゼンを評価対象とし、「心が動かされるかどうか」を軸に100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は評価対象としない。				
テキスト	吉田昌央術式「プレゼン力を身につける」スライド資料の提供 参考図書『堀江貴文のゼロをイチにするすごいプレゼン』				

学科	理容科	担当教員	池田		
科目名	情報処理　OA	学　年	1	実施時期	後期
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	4
教育目標・ ねらい	サロンビジネスに関する情報を収集・処理・分析し、必要な知識を身につけると同時に、プレゼンテーションツールとしてソフトが使えるスキルを学ぶ。				
授業回	学習内容			備　考	
1	ウインドウズ基本操作のネット活用読み解く【到達目標】ウインドウズを使用しパソコンの使い方に慣れ、Word・Excel・PowerPointの特性を				
2	・パワーポイントの基本操作 (スライド作成、編集、画像の挿入、アニメーション設定)				
到達目標	・P C 操作に必要な知識を身につけると同時に、エクセルやパワーポイントがプレゼンテーションツールとして使えるようになる。				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は評価対象としない				
テキスト	・プリント教材				

学科	理容科	担当教員	漆原		
科目名	表現技術（簿記）	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	16
教育目標・ ねらい	サロン経営に必要な財務的視点の習得				
授業回	学習内容				備 考
1	・簿記の基本的な考え方、勘定科目について 【到達目標】資産・負債・資本・収益・費用に属する勘定科目に関する知識の学習し、正しく説明することができる。				
2	・財務三表（貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書の概要） 【到達目標】簿記の基礎的事項である借方・貸方の意味を理解し、損益計算書・貸借対照表の体系を把握し、正しく説明することができる。				
3	・収益構造（店舗経営における、財務的視点） 【到達目標】収益・費用の種類と認識・測定の基準を学習し、様々な形態の収益について、実現主義を適用する際の工夫や実現主義の例外として利益に発生主義や現金主義を適用する例を理解し、正しく説明することができる。				
4	・損益分岐点（損益分岐点及び不随する事項における店舗経営の実例） 【到達目標】損益計算書の意義を理解し、作成方法を理解し表にすることができる。				
5	・売上・経費・収支計算（チームごとに店舗経営のシュミレーション資料作成） 【到達目標】キャッシュフロー計算書の目的と構造をに関する知識の学習し、正しく説明することができる。				
6	・売上・経費・収支計算（チームごとに店舗経営のシュミレーション資料作成） 【到達目標】営業活動によるキャッシュフローの区分の記入法に直接法と間接法があり、これらを比較することにより、計算書に関する知識を深く学習し、正しく説明することができる。				
7	復習				
8	グループワーク				
到達目標	グループごとに店舗の収益構造・価格設定・事業計画策定をしっかりと理解できるようになる				
評価方法	確認テスト(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	授業毎にプリント配布				

学科	理容科	担当教員	池田・柳瀬・三宅		
科目名	ビジネスマインド (ビジネスマナー)	学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	45
教育目標・ ねらい	社会的コミュニケーションの基礎となる目配り・気配り・心配りの意義を深く理解する。 また相手の立場に立って行動出来るよう自己理解を深める。各種技法の意味を理解し自己改善を図ること で主体的に実践出来るようになる。				
授業回	学習内容			備 考	
1	LESSON1 ビジネスパーソンとは 「1-1学生と社会人との違い」 【到達目標】 職業人としての自覚を芽生えさせる。			ビジネスマナー テキストP.1～2	
2	自己分析 【到達目標】 自分の強みや特徴を把握し、自分を客観的に見ることができる			ワークシート	
3	LESSON1 ビジネスパーソンとは① 「1-3 NG行動、1-5 話の聞き方、1-6 笑顔」 【到達目標】 良質な人間関係を築くために基本マナーを知る。			ビジネスマナー テキストP.4.7～8	
4	LESSON1 ビジネスパーソンとは② 「1-3 NG行動、1-5 話の聞き方、1-6 笑顔」 【到達目標】 良質な人間関係を築くための基本マナーを知る。 加えて、「話し手」と「聞き手」のマナーを知る。			ビジネスマナー テキストP.4.7～8	
5	LESSON2 身だしなみ+立ち居振る舞い「2-1 身だしなみ、2-2 立ち居振る舞い」 【到達目標】 『品性』のある身のこなしを学び、実践する。			ビジネスマナー テキストP.9～13	
6	LESSON6 ビジネスパーソンとしてのマナー 「6-1 時間のマナー、6-2 仕事上手のコミュニケーション、6-3 PDCA」 【到達目標】 職場での円滑な関係性を築くための基本マナーの習得。			ビジネスマナー テキストP.51～54	
7	宿泊オリエンテーション 【到達目標】 コミュニケーション能力を習得し、円滑に対人関係を結ぶ				
8	宿泊オリエンテーション 【到達目標】 人から信頼される為に、主体的に物事を考え行動に移す				
9	オリエンテーション振り返り			ワークシート グループワーク	
10	LESSON3 言葉遣い① 「1-2 OK行動、3-1 敬語、3-2 敬語のテクニック、 3-3 気になる日本語、3-4 よく使う接客用語」 【到達目標】 職業人として言葉の使い方を学び、表現できる。			ビジネスマナー テキストP.3,17～24	
11	LESSON3 言葉遣い② 「1-2 OK行動、3-1 敬語、3-2 敬語のテクニック、 3-3 気になる日本語、3-4 よく使う接客用語」 【到達目標】 職業人としての言葉の使い方を学び、表現できる。			ビジネスマナー テキストP.3,17～24	
12	LESSON1 ビジネスパーソンとは① 「1-4働く心構え」 【到達目標】 『9つの意識』を理解し、学園生活での行動にも活かせるようにする。 加えて、正しい価値観・職業観を学ぶ。			ビジネスマナー テキストP.5～6	
13	LESSON1 ビジネスパーソンとは② 「1-4働く心構え」 【到達目標】 『9つの意識』を理解し、学園生活での行動にも活かせるようにする。 加えて、正しい価値観・職業観を学ぶ。			ビジネスマナー テキストP.5～6	
14	LESSON1 ビジネスパーソンとは③ 「1-4働く心構え」 【到達目標】 『9つの意識』を理解し、学園生活での行動にも活かせるようにする。 加えて、正しい価値観・職業観を学ぶ。			ビジネスマナー テキストP.5～6	
15	クラス目標・個人目標振り返り LESSON6 「6-4 コンプライアンスとは、6-5 公私の区別、6-10 SNSの使い方とマナー」			ビジネスマナー テキスト P.55～56.68～69	

授業回	学習内容	備 考
16	クラス目標・個人目標振り返り LESSON4 来客対応① 「4-1 方向や商品の示し指し、4-2 案内誘導、4-3 飲み物の提供、4-4 物の授受、4-5 お会計、4-6 お出迎え・お見送り」 【到達目標】 接遇リテラシーを習得し、実務実習で実践する。	ビジネスマナー テキストP.25～40
17	クラス目標・個人目標振り返り LESSON4 来客対応② 「4-1 方向や商品の示し指し、4-2 案内誘導、4-3 飲み物の提供、4-4 物の授受、4-5 お会計、4-6 お出迎え・お見送り」 【到達目標】 接遇リテラシーを習得し、実務実習で実践する。	ビジネスマナー テキストP.25～40
18	クラス目標・個人目標振り返り LESSON5 電話対応①「5-1 基本、5-2 実施フロー、5-3 こんなときどうする？、5-4 予約の受け方、5-5 アポイントメントの受け方、6-11 クレーム対応」 【到達目標】 接遇リテラシーを習得し、就職後に実践できるようにする。	ビジネス マナーテキスト P.41～49.70～71
19	クラス目標・個人目標振り返り LESSON5 電話対応②「5-1 基本、5-2 実施フロー、5-3 こんなときどうする？、5-4 予約の受け方、5-5 アポイントメントの受け方、6-11 クレーム対応」 【到達目標】 接遇リテラシーを習得し、就職後に実践できるようにする。	ビジネス マナーテキスト P.41～49.70～71
20	クラス目標・個人目標振り返り LESSON6 ビジネスパーソンとしてのマナー① 「6-6 頂き物の取り扱い、6-7 共有スペースでのマナー、6-8 名刺交換」 【到達目標】 ビジネスパーソンとしての基本マナーを学び、就職後に実践できるようにする。	ビジネスマナー テキストP.56～67
21	クラス目標・個人目標振り返り LESSON6 ビジネスパーソンとしてのマナー② 「6-6 頂き物の取り扱い、6-7 共有スペースでのマナー、6-8 名刺交換」 【到達目標】 ビジネスパーソンとしての基本マナーを学び、就職後に実践できるようにする。	ビジネスマナー テキストP.56～67
22	実務実習の振り返り	ワークシート グループワーク
23	クラス目標・個人目標振り返り LESSON6 ビジネスパーソンとしてのマナー③ 「6-9 手紙の書き方」 【到達目標】 ビジネスパーソンとしての基本マナーを学び、就職後に実践できるようにする。	ビジネスマナー テキストP.64～67
到達目標	職業人を目指すうえで、学んだ知識・技術そして心構えを実践し、相手からの信頼を得られることが出来る。	
評価方法	実務実習・学外実習等における実習指導者の評価及び個人目標振り返りによる自己評価と、それに基づく担任面談の結果による。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない	
テキスト	ビジネスマナーテキスト	

学科	理容科	担当教員	井川		
科目名	ビジネスマインド (理容広告・宣伝)	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	講義(グループワーク含む)	必修・選択の別	必修	授業時間 (単位)	16
教育目標・ ねらい	マーケティング活動における広告の基本知識を学び、美容業界における広告戦略の考え方や効果的な広告の表現方法を学ぶ。従来のアナログ広告とデジタル広告を対比させながら各媒体の特徴と活用方法を理解する。 特にサロン集客で重要なコンテンツマーケティングについての基本を解説、どのようなメッセージや情報をどのようなデジタルツールを使って発信すればユーザーの興味・共感を惹きつけられるか等について学ぶ				
授業回	学習内容				備 考
1・2	広告の概要について 【到達目標】 ・ 広告と広報の違いについて説明できる ・ 美容業界の市場データを把握する ・ 顧客に合わせた適切なアプローチ方法を理解する ・ マーケティングの知識が深まり販売戦略について考える ・ サロンのUSPについて考えることで競合との差別化の図り方が分かる				・ 参考資料 東京経済「業界地図」 ホットペーパー・アカデミー「美容業界データ」、 アンデッシュ・ハンセン「スマホ脳」、帝国データバンク「景気業界動向」
3・4	デジタル化とコンテンツマーケティングについて 【到達目標】 ・ 急速に進むデジタル化が美容業界にもたらす影響について説明できる ・ 今後の美容業界で求められるスキルについて理解する。 ・ オンラインコミュニケーションの必要性和各SNSの特徴を知る ・ コンテンツマーケティングについての概要を理解する。 ・ ユーザーを分析して適切なアプローチ手段が分かる				・ 参考資料 ロジャードゥーリー「脳科学マーケティング」、 ドルー・エリック・ホイットマン「現代広告心理技術」
5・6	コピーライティングについて 【到達目標】 ・ 製品やサービスの特徴を魅力的に伝えることができる。 ・ ターゲットに合わせた効果的な伝え方を理解する ・ キャッチコピー、セールスライティング技術を身に着ける ・ 脳科学マーケティングについて興味・関心を持つことができる ・ 潜在的な顧客に対して購入を促すことができるようになる。				・ 参考資料 ジョン・ケーブルズ「ザ・コピーライティング」
7・8	ホームページ作成 (WordPress) ・ サイト作成ルーツ (Word Press) 他CMSの基本操作を知る ・ 基本的なデザイン、レイアウトの知識を身につける ・ アクセス解析について理解し説明ができる ・ ランディングページ (LP) についての作り方がわかる ・ ネット販売の知識が身に付く ・ サロン売り上げに貢献できるスキルが身に付く				・ 使用アプリ WordPress、Google Analytics、etc
到達目標	広告に関心を持つことで、人の心理を理解し、相手に応じた適切なコミュニケーションが取れるようになる DX化に向けて、これからの社会で求められる能力を把握し、必要とされるスキルを習得させる。 脳科学マーケティングに興味、関心を持つことで、発信者の意図を探り、客観的に情報を読み解く力と判断力が身に付く。 コピーライティングのスキルを身につけることで、効果的な発信方法で、集客促進や売上向上に貢献できるようになる。				
評価方法	毎授業終了時の確認テストにて評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は評価対象としない。				
テキスト	教材：配布資料（毎回A4、2頁程度）、特設サイトに教材をアップし、学校以外からでも学習に活用。 利用履歴を確認				

学科	理容科	担当教員	池田・柳瀬・三宅		
科目名	ビジネスマインド(サロン説明会)	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	14
教育目標・ ねらい	理容師としてのキャリアを早期に考える事で学ぶ目的が明確化し、実務実習に向けて、計画を立て行動していくことをねらいとする				
授業時間数	学習内容			備 考	
1～6	〈サロン説明会〉 様々な業態の理容サロンを招き、各サロンの特徴を知る。このことを通して理容サロンの幅広い業態ならびに理容業界の理解を深める。				
7	〈サロン説明会報告会〉 グループワークを通して各サロンの説明内容をまとめ、各自がサロンレポートを作成する。				
到達目標	各サロンの説明内容から、自身のキャリアプランから逆算して、自分の将来像に適していると思う実務実習先を自分で決めることができる				
評価方法	課題提出のサロンレポートにて評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	サロンレポート「1.2」				

学科	理容科	担当教員	立花		
科目名	高度総合理容技術理論（毛髪化学）☒	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	医薬品医療機等法によって化粧品と薬用化粧品の違いを理解する事によって、プロとして必要な知識とお客様に適切な商品と技術を提供する☒				
授業回	学習内容			備 考	
1・2・3	医薬品医療機等法を正しく理解する 【到達目標】薬事法を理解する				
4・5	頭皮と髪の仕組みをしる 【到達目標】「禿げやすい」かどうかを見分けることができる				
6・7	総復習 【到達目標】プロとしてのカウンセリング術の理解☒				
到達目標	適切なカウンセリングの手法を学ぶことにより技術以外での理容師としての現場で必要な力を身に付ける				
評価方法	相モデルによる実習（カウンセリング）により評価する。カウンセリングにおける対応力(知識、情報収集力等)を評価基準とする。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	(株)ミューズ研究所作成テキスト☒				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、基礎技術をさらにブラッシュアップした創造的なスタイル作成の指導を行う				

学科	理容科	担当教員	池田・柳瀬・三宅		
科目名	高度総合理容技術実習	学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	138
教育目標・ ねらい	身に付けた理容技術の基礎的知識、技能をより実践的な場で学習することにより、ビュー ティークリエイターとして必要な応用力と想像力を高める。				
授業回	学習内容				備 考
1～6	来客実習	マッサージ・シャンプー・シェービング理論と技術の習得及び外部モデルを使用しての実践的な技術の習得 【到達目標】お客様に快感を与えられマッサージ・シャンプー・シェービング理論と技術の習得とお客様から好感を持たれる接客をすることができる			12
7～15	見学実習	理容サロンを見学することで業態の違いを知るとともに、実際のサロン業務の流れを知る 【到達目標】今後、サロンで活躍する為に必要な知識や技術、人間力などの課題を明確にし、能力向上に向けた計画をたてられる			18
16～26	サイドシャンプー	サイドシャンプー理論及びサイドシャンプー技術を習得する 【到達目標】お客様に快感を与えられるサイドシャンプー技術並びに好感を持たれる接客力を習得する			22
27～35	メンズ スタイル	3つのヘアスタイル（ロング、ミディアム、ショート）通じて、ヘアデザインの幅を広げる 【到達目標】3つのヘアスタイルを通じてヘアスタイルのデザイン別に合わせたカッティング理論、技術を習得する			18
36～65	実務実習	理容サロンのスタッフとして、アシスタント業務を遂行し、理容師としての職業観を深めていく 【到達目標】今後、サロンで活躍する為に必要な知識や技術、人間力などの課題を明確にし、能力向上に向けて計画を立てられる			60
66～69	コンテスト	クリエイターとしてクリエイティブな作品を作るために必要な応用技術を習得する 【到達目標】今まで学んできた基礎技術を応用し、コンテストのテーマに合わせて作品を制作することができる			8
到達目標	理想の理容師像に向かって、自ら必要な能力（知識、技能、人間力）を向上する為に、自分で計画を立てて学習していくことができる。				
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	「理容技術理論 1・2」「技術テキスト」：日本理容美容教育センター指定教科書				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、基礎技術をさらにブラッシュアップした創造的なスタイル作成の指導を行う				

学科	理容科	担当教員	鈴木		
科目名	高度総合理容技術実習 （香粧品の製法）	学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 （単位）	12
教育目標・ ねらい	理容師としての基礎知識（香粧品化学と連動）の集積の為、各製剤の特徴や作用の仕組みや処 方の構成を理解する事を目的とする。				
授業回	学習内容			備 考	
1	①シャンプーについての講義 ②シャンプーの試作 【到達目標】各原料の役割と特徴を説明可能にする（香粧品化学と連動）				
2	①ヘアトリートメントについての講義 ②トリートメントの試作 【到達目標】各原料の役割と特徴を説明可能にする（香粧品化学と連動）				
3	①ヘアスタイリング剤・エアゾール講義 ②ヘアグリース・ヘアオイルの試作 【到達目標】各原料の役割と特徴を説明可能にする（香粧品化学と連動）				
4	①染毛剤についての講義 ②ヘアマニキュア・ヘアブリーチの試作 【到達目標】各原料の役割と特徴を説明可能にする（香粧品化学と連動）				
到達目標	①各香粧品の内容物の成り立ちや使用目的を把握し説明できる ②香粧品に配合されている成分に対し配合目的を明確に説明できる ③各製剤の配合物の種類や量による性能の差異を、香粧品化学の講義と連動して説明できる				
評価方法	各期実験レポート（80点満点）、及び筆記小テスト（20点満点）で評価する。なお所定授業 時間数（全体の4/5）を下回る学生は受験する事ができない。				
テキスト	・香粧品化学：日本理容美容教育センター指定教科書 ・授業毎にプリント（処方）配布				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員は35年以上の化粧品製造会社の技術職勤務経験を 踏まえ、実験を主体に、サロン現場で必要となる化学知識の習得を目的とした授業を行う				